

Choosing Wiselyに関連したアンケート調査

(1 / 2)

調査票提出締め切り：令和元年10月31日（木）
本ファイルの回答先（問い合わせ先）：ph00118@akita.bc.jrc.or.jp ※本様式にお書きいただいてもかまいません

このたび秋田県合同輸血療法委員会では、Choosing Wiselyに関連したアンケート調査を実施する事となりました。今後の輸血医療全般や血液製剤の適正使用に活用させて頂くものです。お忙しい中誠に恐縮ですが、調査への御協力よろしくお願いいたします。なお、調査票に記入された個別の医療機関名については公開いたしません。
調査票（2枚）は、院内輸血療法委員会所属の医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師等の各委員の先生のそれぞれのご回答をお願いいたします。

医療機関の名称				
記 入 者	所属診療科・所属部門	職種	役職	氏 名（無記名でも可）
連絡先※ メールアドレス			連絡先 電 話	() 内線

※氏名につきましては、無記名でもかまいません
※連絡先につきましては、回答内容について確認させて頂く場合のみ使用させていただきますので、可能であれば御記入ください

医療従事年数（勤務経験）は概ね何年目ですか。
☐ 1～2年 ☐ 3～5年 ☐ 6～10年 ☐ 10～20年 ☐ 20～30年 ☐ 30年以上

「過剰な医療行為」について
問 1. 国内で医師が施行している各医療行為の中で、どの程度過剰なものがあると思うかお答えください。
(回答に苦慮する設問ですが、概ねどの程度の割合か感覚でかまいませんので回答のご協力をお願いします)

- 1-1.総検査数のうち、だいたい何パーセントが過剰検査だと思いますか？
☐ 0～10% ☐ 10～20% ☐ 20～30% ☐ 30～40% ☐ 40～50% ☐ 50～60% ☐ 60～70% ☐ 70～80% ☐ 80～90% ☐ 90～100% ☐ 不明
- 1-2.総治療行為のうち、だいたい何パーセントが過剰治療と思いますか？
☐ 0～10% ☐ 10～20% ☐ 20～30% ☐ 30～40% ☐ 40～50% ☐ 50～60% ☐ 60～70% ☐ 70～80% ☐ 80～90% ☐ 90～100% ☐ 不明
- 1-3.総処方薬のうち、だいたい何パーセントが過剰処方と思いますか？
☐ 0～10% ☐ 10～20% ☐ 20～30% ☐ 30～40% ☐ 40～50% ☐ 50～60% ☐ 60～70% ☐ 70～80% ☐ 80～90% ☐ 90～100% ☐ 不明
- 1-4.赤血球輸血(RBC)のうち、だいたい何パーセントが不適正輸血と思いますか？
☐ 0～10% ☐ 10～20% ☐ 20～30% ☐ 30～40% ☐ 40～50% ☐ 50～60% ☐ 60～70% ☐ 70～80% ☐ 80～90% ☐ 90～100% ☐ 不明
- 1-5.血漿輸血（FFP）のうち、だいたい何パーセントが不適正輸血と思いますか？
☐ 0～10% ☐ 10～20% ☐ 20～30% ☐ 30～40% ☐ 40～50% ☐ 50～60% ☐ 60～70% ☐ 70～80% ☐ 80～90% ☐ 90～100% ☐ 不明
- 1-6.血小板輸血（PC）のうち、だいたい何パーセントが不適正輸血と思いますか？
☐ 0～10% ☐ 10～20% ☐ 20～30% ☐ 30～40% ☐ 40～50% ☐ 50～60% ☐ 60～70% ☐ 70～80% ☐ 80～90% ☐ 90～100% ☐ 不明
- 1-7.人血清アルブミン製剤投与のうち、だいたい何パーセントが不適正輸血と思いますか？
☐ 0～10% ☐ 10～20% ☐ 20～30% ☐ 30～40% ☐ 40～50% ☐ 50～60% ☐ 60～70% ☐ 70～80% ☐ 80～90% ☐ 90～100% ☐ 不明
- 1-8.人免疫グロブリン製剤投与のうち、だいたい何パーセントが不適正輸血と思いますか？
☐ 0～10% ☐ 10～20% ☐ 20～30% ☐ 30～40% ☐ 40～50% ☐ 50～60% ☐ 60～70% ☐ 70～80% ☐ 80～90% ☐ 90～100% ☐ 不明

問 2. 日本で過剰診療が行われる理由について考えられるものはどれですか（3項目まで選択可）

<input type="checkbox"/> 医療過誤が心配	<input type="checkbox"/> 患者の圧力または要求	<input type="checkbox"/> 以前の検査結果入手が困難
<input type="checkbox"/> 適応がボーダーライン上にある	<input type="checkbox"/> 患者に十分な時間を費やせない	<input type="checkbox"/> 十分な情報または既往歴情報がない
<input type="checkbox"/> 施設または経営側からの圧力	<input type="checkbox"/> 良好な診療能力評価につながる	<input type="checkbox"/> 他の医師との連絡が面倒
<input type="checkbox"/> 同僚からの圧力	<input type="checkbox"/> 医師の給与が保証されるから	<input type="checkbox"/> 過剰診療ない
<input type="checkbox"/> その他（内容を下にお書きください）		

問 3. 過剰診療を減らせる方法について考えられるものはどれですか（3項目まで選択可）

<input type="checkbox"/> ガイドラインに基づいた研修医の教	<input type="checkbox"/> 外部の医療記録の診療情報へのアクセスを良くする	<input type="checkbox"/> 診療ガイドラインを充実させる
<input type="checkbox"/> オーダー時の費用を見えるようにす	<input type="checkbox"/> 診療における基本報酬を増やし出来高払い報酬を減らす	<input type="checkbox"/> 医師相互評価の機会を増やす
<input type="checkbox"/> 行政における規制を強化する	<input type="checkbox"/> その他（内容を下にお書きください）	

Choosing Wiselyに関連したアンケート調査

(2/2)

「Choosing Wisely」について

近年、医療界で「Choosing Wisely」という言葉が使われるようになってきています。米国発祥の取り組みで、国内で啓発活動をしている Choosing Wisely Japanは「医療者と患者が、対話を通じて、科学的な裏づけ（エビデンス）があり、患者にとって真に必要で、かつ副作用の少ない医療（検査、治療、処置）の“ 賢明な選択” をめざす、国際的なキャンペーン活動」と説明しています。

問4. 「Choosing Wisely」を知っていますか。

- ☐ 概ね概念を理解している ☐ 言葉は聞いたことがあるが、概念はよく分からない ☐ 言葉を聞いたことがない

問5. 輸血用血液製剤（赤血球、血漿、血小板製剤）に「Choosing Wisely推奨項目」があることを知っていますか。

- ☐ 知っている ☐ 知らない

問6. 「Choosing Wisely」という取組へ、賛同しますか。

- ☐ 賛同する ☐ 賛同しない ☐ どちらとも言えない

問7. 「Choosing Wisely（賢明な選択）」でない医療行為があるとしたら、その背景にあるものは何があると思いますか。（3項目まで選択可）

- | | | | |
|--------------------------------------|---|---------------------------------------|------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 患者側の理解不足 | <input type="checkbox"/> 医療者側の理解不足 | <input type="checkbox"/> 人手、時間のリソース不足 | <input type="checkbox"/> 出来高制の診療報酬 |
| <input type="checkbox"/> 薬などの保険適応の制限 | <input type="checkbox"/> 無料・低額の患者負担（生活保護、小児医療費助成など） | <input type="checkbox"/> 診療ガイドラインの不備 | |
| <input type="checkbox"/> 医療訴訟への備え | <input type="checkbox"/> その他（内容を下にお書きください） | | |

問8. 日常診療や血液製剤の使用に関して「Choosing Wisely（賢明な選択）」でない医療行為の実例があればご記入ください（自由表記）

問9. 日常診療や血液製剤の使用に関して「Choosing Wisely（賢明な選択）」に合致したり、推進するような実例や取り組みがあればご記入ください（自由表記）

問10. 自己血輸血（貯血式自己血、希釈式自己血、回収式自己血）を、推進するような実例や取り組みがあればご記入ください（自由表記）

(参考) Choosing Wiselyに関連したアンケート調査 所属診療科一覧

診療科	厚労省コード	診療科目	厚労省コード	診療科目
(1) 心臓血管外科	170	心臓血管外科		
(2) 消化器外科	210	肛門科	510	消化器外科
	520	肝胆膵外科	540	大腸肛門科
(3) 脳神経外科	150	脳神経外科	580	脳卒中科
(4) 呼吸器外科	160	呼吸器外科	250	気管食道科
(5) 整形外科	120	整形外科	260	リハ科
(6) 産婦人科	220	産婦人科	320	産科
	330	婦人科	560	不妊内分泌科
(7) 皮膚科・形成外科	300	皮膚科	130	形成外科
	140	美容外科		
(8) 泌尿器科	310	泌尿器科	200	性病科
	190	皮膚泌尿器科		
(9) その他の外科	110	外科	240	耳鼻咽喉科
	230	眼科	550	眼形成眼窩外科
	490	麻酔科	610	乳腺甲状腺外科
(10) 血液内科	470	血液科	480	血液内科
	660	血液腫瘍内科		
(11) 循環器内科	70	循環器科	350	循環器内科
(12) 消化器内科	60	消化器科	290	胃腸科
	500	消化器内科		
(13) 呼吸器内科	50	呼吸器科	340	呼吸器内科
(14) 腎臓内科	410	腎臓内科	430	血液透析科
	670	腎不全科	420	腎移植科
(15) 神経内科	40	神経科	280	神経内科
(16) 膠原病リウマチ科	80	アレルギー科	90	リウマチ科
	570	膠原病リウマチ科		
(17) 内分泌代謝科	400	糖尿病科	440	代謝内科
	450	内分泌内科	530	糖尿内科
	650	内分泌リウマチ科	690	内分泌代謝科
(18) その他の内科	10	内科	270	放射線科
(19) 精神科・心療内科	30	精神科	680	精神神経科
	20	心療内科		
(20) 小児科	100	小児科	180	小児外科
	620	新生児科	630	小児循環器科
(21) 腫瘍治療科	590	腫瘍治療科		
(22) 救急科	460	救急医学科		
(23) 歯科・口腔外科	360	歯科	390	歯科口腔外科
	380	小児歯科	370	歯科矯正科
(24) その他の診療科	600	総合治療科	640	緩和ケア科

診療科分類は厚労省診療科コードを用いて便宜上 24 種類に分けました。診療科が一致しない場合でも、診療内容の近い診療科を左端の診療科(1)～(24)から選択してください。
この分類は平成 30 年度「DPC 導入の影響評価に係る調査」実施説明資料の診療科コードを利用したものです。